

## 令和7年度仙台市いじめ防止等対策検証会議 児童館関係職員ヒアリング概要

### 1 実施状況

- ・ 10月29日（水）NPO法人アスイク（荒井児童館、東六番丁児童館）
  - ・ 10月29日（水）労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団  
(国見児童館、鶴ヶ谷東マイスクール児童館、連坊小路マイスクール児童館、荒町児童館、大野田児童館、金剛沢児童館、東長町児童館、東宮城野マイスクール児童館、根白石児童館)
- ( ) 内は各指定管理者が運営している児童館

出席者：本岡副会長、石川委員

### 2 ヒアリング内容

#### 【こどもからのSOSを受信しやすい環境づくり】

	内 容	委員所感
職員と子どもの関係づくり	<p>○こどもたちと「斜めの関係」を築くようにしており、友達でも先生でもない、少し身近な大人として接することで、こどもたちと一緒に遊んで話し、時間を共にすることを大切にしている。こどもが悩みや困りごとを話してくれたときには、一緒に考える姿勢で耳を傾けることも大切にしている。</p> <p>○こどもたちに、いつでも話していいことを直接伝えるだけではなく、ポスターやカードを掲示してメッセージを届ける工夫をしている。また、子どもの権利についても、廊下にポスターを掲示するなど、視覚的にも自分の気持ちを話してもいい場所だと感じてもらえる環境づくりを心掛けている。</p> <p>○こどもたちは楽しいと思っていても、大人が見ると心配と感じる場面もある。そういう時には、「私たちから見ると、こういうふうに見えるよ」とこどもたちに伝えている。児童館は公共の場なので、いろいろな人が来る中でその遊び方を見た人が大丈夫かなと思うこともあるので、そういった視点も含めて伝えるようにしている。</p> <p>○こどもたちが意見を言いやすく、自分の思いを吐露できるような環境づくりを意識している。例えば、意見箱の設置や、信頼できる大人との関係性の構築など、職員が日々大事にしているところである。</p> <p>○こどもたちと目線を合わせることを大切にしている。子どもの話をじっくり聞き、こども自身が次の一步をどう踏み出すか考えられるような関わり方をしている。</p>	<p>○少子化の時代には、家族や教員ではないがこどもに寄り添う「斜めの関係」の大人が必要な存在である。ネット上のつながりを求めるこどももいるが、実際に存在する大人との関係が大切だ。（石川委員）</p> <p>○自分の気持ちを話していいということを伝えるときに、子どもの権利という視点を持っているのは、児童館ならではと感じる。（石川委員）</p> <p>○学校現場は、周囲から見てだめなものはだめだと伝える場面が多々あるが、状況に合わせて児童館のような伝え方があつてもよいのかもしれない。（石川委員）</p> <p>○こどもの話をよく聞くことや意見の吸い上げなどはどの児童館でも共通して行われている。児童館がこどものサードプレイス的役割を果たしていることが理解できた。（石川委員）</p> <p>○こどもが自分のことを自己決定できるような支援を、その子のペースでできるのは児童館の強みである。（石川委員）</p>

	内 容	委員所感
職員と子どもの関係づくり	<p>○低学年のことわらちは、自分の感情を言葉で表現したり、相手の気持ちを汲み取ったりすることが難しいが、大人とのやり取りを通して、友達の考えを聞く、自分のことを大事にする、自分の思いをしっかりと言えるようになる力が日々育っていると感じる。</p> <p>○こどもたちとじっくり話す場や時間の確保が難しい。困っているこどもを個別に話ができる場へ誘導しているが、静かな場所の確保が難しい。さらに、職員が個別対応に入ると、他のこどもたちを見守る人員が減ってしまう。</p> <p>○低学年のことわらには、相手の気持ちを考えることや人を思いやることが難しい場合がある。家庭環境や保護者自身の幼少期からの養育環境など、より深い要因があると感じる。どこまで支援し寄り添うべきかが課題である。</p> <p>○マイスクール児童館ではじっくり話せる部屋が確保しづらい。事務室や人数が減った後の空き部屋を使うなど工夫している。</p>	<p>○自分の思いを自分の言葉で伝えられるようにするためにには、日々のやりとりが大事。ここを伸ばすためにも人的に余裕がほしい部分であると思う。 (石川委員)</p> <p>○こどもと向き合う場や時間の確保は、こどもを預かる者にとって共通の悩みである。人数だけでなく資質や能力も必要。そのため研修や情報共有が重要になってくる。 (石川委員)</p> <p>○課題が見えることと支援することは分けて考えたいが、実際に担うところがないのが実情。児童館や学校がやらざるを得ない場合も出てくるのではないか。 (石川委員)</p> <p>○実際の対応だけでなく見守るだけでも人手は必要だが、予算や場所の問題を解決する必要がある。個人情報管理の面からも、正規職員が担うべきところかと思う。 (石川委員)</p>
職員と保護者との関係づくり	<p>○保護者対応については、まず日頃から積極的に声を掛けることを意識している。トラブルがあった時だけ声を掛けるような対応では、保護者の方も「何かあったのかな」と身構えてしまい、意思疎通が難しくなることもあるため、日常的なコミュニケーションを大切にしている。</p> <p>○どうしても児童館の現場だけで解決しきれず、保護者同士のトラブルに発展した場合は、法人が間に入り、一緒に話をしている。</p> <p>○対応が難しくなるのは、トラブルが保護者同士に発展した場合である。最近では、「弁護士を呼ぶ」「警察に行く」といった話が出ることもある。そうした場面では、法人が間に入り、調整することもある。</p> <p>○こども同士のことは、ある程度児童館で対応できるが、保護者同士の対立になると、こどもがないがしろになってしまうことがある。そうなると、こども同士のこれから関係性の構築にも影響が出ることもある。</p>	<p>○児童館では、日常的なコミュニケーションにより、迎えの際に保護者へ直接気になることを伝えられるのが強みである。一方、学校では保護者が迎えに来ることが少なく、電話では細かな様子を伝えにくい。 (石川委員)</p> <p>○現場対応に任せすぎず、法人が対応することが、職員の安心感につながることも多いと思う。 (石川委員)</p> <p>○保護者の考え方は多様化しており、現状では子どもの成長だけでなく、保護者の納得に重点が置かれる傾向がある。この折り合いをつける管理職の負担は大きいと考えられる。さらに、トラブルが大きくなると職員だけでの対応は困難であるため、専門窓口が対応し、職員がこどもへの支援に専念できる仕組みを検討する必要がある。 (石川委員)</p>

	内 容	委員所感
職員と保護者との関係 づくり	<p>○以前、児童館では、保護者からご相談いただいた案件で、保護者の方の気持ちがなかなか収まらなかった点で対応が難しい場面があった。</p>	<p>○保護者と子どもの気持ちが一致していない場合も多い。そこをどうソフトランディングするかは、子どもにどうなってほしいかを共有することが必要なのだろう。多様な考えもあるので正解がないことも多い。場合によっては第三者機関に委ねることも必要ではないか。（石川委員）</p>
いじめの未然防止	<p>○子どもの権利に関し、ワークショップ、意見箱、こども企画という形で、こどもが意見を言いたいときに言える仕組み、やりたいことを実現できる仕組みを日頃から取り入れている。</p> <p>○児童館の館内研修において、発達障害なども含めて、こどもとの関わりや保護者対応などの項目を1年間で網羅できる仕組みを作っている。そのほか、外部研修にも職員を派遣し、内容を館内で共有している。</p> <p>○職員が仙台市主催の研修や外部研修に参加し、内容を館内で共有している。法人としても、児童館のガイドラインや子どもの権利、いじめ等の研修を年間計画に基づき実施している。そのほか、大人からこどもへの不適切な対応に関する研修も行っている。</p> <p>○低学年のかどもたちには「みんなが仲良く」というのはなかなか難しいという話をしている。高学年になり、人間関係も複雑になっていくと、こどもたち自身も少しずつ気づいていく。こどもたち同士のやりとりの中で社会性が育まれていくのを感じる。</p>	<p>○こどもが自分の意見や要望を聞いてもらい、その実現のために行動する経験が自尊感情を高め、自分を大事にしようという気持ちの醸成につながる。（石川委員）</p> <p>○こどもとの関係について、適切で教育的な対応が行われ、教育団体としての意識が高いことが改めて確認できた。一団体については、発達障害への対応という専門的な視点も披瀝され、研修を行う仕組みが整っていた。他方の団体も現場、中間管理、中央管理という、三段階のなかで、より適切な対応が展開されていることもわかり、安心感が感じられるご回答であった。（本団副会長）</p> <p>○どの児童館も計画的に研修が行われていることは大事なポイント。基本研修に加え、時流に合わせて内容をアップデートしている点は保護者にとっても安心ではないか。（石川委員）</p> <p>○みんな仲良くは難しいが、それぞれの思いの違いをどう理解し、どこまで受け入れられるかを、時間をかけて見守ることができるるのは児童館ならではだと思う。（石川委員）</p>
いじめへの対処	<p>○児童館でトラブルがあった場合、両者を会わせて解決する対応はせず、各家庭に個別に連絡している。その後の経過についても、保護者から児童館に、どのような形で連絡を取ったかということや謝罪があったのかどうかを教えていただいたらり、最近の児童館での子どもの様子を保護者に伝えたりしている。そういった場合には学校にも情報共有し、学校の先生とも連携しながら、学校での様子と児童館での様子を合わせて保護者に伝えられるようにしている。</p>	<p>○形式的な和解ではなく、長い目でみしていく、見守っていくという姿勢をとっておられることが確認できた。（本団副会長）</p> <p>○トラブルについて、最終的に両者を会わせて解決する対応をしない、というのが学校との大きな相違点ではないか。本人の気持ちを大事にすることは学校でも行っているが、ある程度の終結までを求められる学校との立ち位置の違いがあるのかもしれない。（石川委員）</p>

	内 容	委員所感
いじめへの対処	<p>○児童館では、全員が全員いつでも仲良くしなければいけないとは思っていないということも、こどもたちに伝えるようにしている。自分の気持ちを大切にしていいことを伝え、一緒に遊ぶのが難しい場合には今はちょっと離れて遊ぼうかという提案をすることで、無理なく過ごせるようにしている。</p> <p>○児童館では、こどもに伴走しながら話を聞き、「次こうしてみようか」と取り組んでいく。一緒に話したり歩んでいく中で、変わっていくこともあると考えている。こどもたち自身や保護者が何を求めているのかというのは、その場その場で出てくるものであり、みんなで次はどうしていこうかと考えながら進めている。一番大事なのは、こども同士がこれから児童館や学校で一緒になることがあつたときに、その子とどう付き合っていくのか、その子だけでなく、自分自分がどうやって友達と関係性を築いていくのかという気づきにつながるように、寄り添っていきたいと考えている。</p>	<p>○そのときの自分の気持ちに正直になり、過ごせる場所として児童館が機能している点も学校とは異なる。（石川委員）</p> <p>○教員も同じ思いはあるものの、学校現場ではある程度のスピード感をもつて対応することが求められることが多いため、どこまで見守りをするか、判断が難しく、児童館との立ち位置の違いがここにあると思った。（石川委員）</p>

### 【児童館と学校との連携】

	内 容	委員所感
学校との情報共有	<p>○常時、児童館で何かトラブルや気になることがあれば、学校に電話し、担任の先生方や教頭先生に共有している。また、児童館と学校で定期的に情報交換会を行っている。</p> <p>○児童館で起きたことを保護者や学校に共有することで、よりきめ細かな対応が可能になる。トラブルがあった際には、こどもにも「担任の先生に伝えておくね」と声を掛けると、安心している様子が見られることもある。</p> <p>○学校との連携については、非常に密に行われている。児童館と学校の間に線引きをせず、学校側も「同じこども」という認識を持ってくれていることに助けられている。</p> <p>○学校も児童館も人事異動があり、毎回一から関係を築いていく必要がある。そのため、学校管理職と児童館の館長や主任とのコミュニケーションを大事にしている。</p>	<p>○児童館と学校との定期的な情報交換や連絡などの学校でも行っているが、学校は決まった時間に授業や行事等があるので、すぐに情報共有ができる訳ではないところが難しいと感じる。（石川委員）</p> <p>○こどもの対応は、責任の所在や対応者を厳密に線引きするのではなく、ある程度重なる部分があることでうまくいくケースが結構ある。（石川委員）</p> <p>○学校との関係性については、管理職が主体となって児童館との関係性を構築することを期待されていると理解した。（石川委員）</p>

	内 容	委員所感
学校との情報共有	<p>○学校の先生も日常的に児童館に来て、子どもの様子を見たり、情報共有をしてくれている。トラブルの共有を通して、子どもを育てる同じ大人としての視点を持つことで、子どもたちの精神面も安定し、心の安全基地を作るうえで非常に重要と感じている。</p> <p>○現在、児童館と学校とは非常に密に連携できているが、定期的な情報共有の機会をもう少しきめ細かく設けることができれば、さらに連携を強めていけるのではないかと感じている。</p> <p>○学校にも守秘義務などがあり、起きたこと全てを伝えるのは難しいことも理解するが、児童館では、子どもの情報をもう少し共有してもらえるとありがたいという声もある。</p>	<p>○学校や児童館など決まった施設が子どもの生活を支えているが、トラブルがあってもすぐに解決を求めるのではなく、子どもを支え、時には見守ることが必要という共通認識を、社会全体で持つべきではと考える。（石川委員）</p> <p>○情報共有については難しい部分もあるので、具体にどうしてほしいか伝えることが必要。そのうえで伝えられることとそうでないことの線引きをしっかりと意識し、共有すべきところのみ共有できれば良いと思う。（石川委員）</p> <p>○学校に対応を依頼するのではなく、自律的に対応し、そのうえで学校と連携したいという意向であることが再確認できた。円滑に進むかどうかは、児童館と学校の関係によって異なることが、行間から推測された。（本団副会長）</p>